

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立唐津商業高等学校（全日制）
-----	-------------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・生徒の学ぶ意欲を高めることにつながる授業の実践は、職員全員が丸丸となって取り組む課題であり、今後もさらなる適切な進路選択につながるよう粘り強く指導を行う必要がある。 ・「ホスピタリティマインド（気配りができる心の持ち方）」の会得と商業性としての専門的知識・スキルの習得の両立はある程度達成できているが、他校との優位的な差別化ができるよう指導力の向上を図る。 ・地域社会と共存する取組は、商品開発等の取組として実践できているが、さらに地域から必要とされる学校づくりや地域の発展に役立つ能力を身に着けさせる取組を今後も行っていく必要がある。
------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	・地域との協働のもと、唐津の持つ様々な資源を活用した探究活動を通じて、学校及び地域のさらなる活性化を目指す。 ・社会や経済の持続的な発展に寄与できるビジネス教育を通して、幅広い知識と教養を身に付け、自ら考え行動する資質を育み、唐津地区・県・国の発展に貢献できる人材を育成する。 ・幅広い知識と教養を身に付け、自ら考え行動する資質を育み、ふるさと唐津や我が国の発展に貢献できる人材(人財)を育成する。
----------------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
	① 礼節を重んじ人を思いやる心を持ち、本校での学びに必要な学力を有する生徒を求めます。 ② ビジネスを学ぶことに興味・関心があり、専門的な知識・技能の習得や資格取得に意欲的に取り組むことができる生徒を求めます。 ③ 世の中の激しい変化に対応できるように自らを変え、成長させるため、根気強く努力することができる生徒を求めます。 ④ 生徒会活動や部活動等を通して、学校の活性化に寄与することを期待できる生徒を求めます。	① 知識・技能を活用する実践力を身に付けるため、検定資格取得の機会を設けます。 ② 教育講演会や各教科・科目の授業において幅広く外部人材を活用します。 ③ 探究活動を通じて、意欲的に地域について学び、地域行事や奉仕活動に参加します。 ④ 地域産業と連携した実践的学習活動を実践します。	① 様々な経済活動で役に立つ確かな知識や技能を身に付け、活用できる実践力を育成します。 ② 課題解決に必要な情報収集能力と情報分析能力を育成します。 ③ 自らの適性と世の中の動きを正確に理解し、自ら判断して行動する力を育成します。 ④ 自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳心を養成します。

4 本年度の重点目標	1. 高校生としての生活習慣の確立 学生として学びに向かう基本的な態度を確立し、切磋琢磨しながらも向上心を持ち続ける学校集団の形成を目指す 2. 学力向上 日頃の授業を大切にし、わかる授業、考える力（論理的思考力）をつける授業の実践とともに個人の能力に応じた的確で細やかな到達目標を設定し、能動的な学びを定着させる 3. 商業教育の充実 商業を学ぶ者として差別化できるだけの専門的な知識・技能の習得を目指す。また、人を幸せにするために最も必要である「ホスピタリティマインド」を会得することで、「働く」ことを意識した職業人になる自覚を持たせる 4. 地域社会への貢献 常に社会貢献の視点を持ち、学校自らの情報を積極的に発信しながら、地域産業と積極的に連携し、地域社会と共存する学校づくりを目指す
------------	---

5 重点取組内容・成果指標				中間評価		最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の向上と定着 ○学力診断・各種適性検査の活用による指導の改善	○家庭学習が定着したという生徒の割合85%以上 ○学力診断に基づく客観的分析の実施問題解決できる生徒の割合70%以上	・就職試験に対応できる普通教科の基礎学力定着を重点的に指導する。 ・主体的な進路選択ができるよう、客観的データが有効に活用しながら支援を行う。	C	・基本的な英単語が身についていない生徒が多いので授業中の単語テストなどに対応する ・家庭学習は、宿題も含め88%の生徒が行っているが、取組時間は半数が1時間以下であり、各教科における家庭学習の充実を図る必要がある。	B	・朝自習時の10分間に毎日プリントを配布し基礎学力の定着に努め、進路実現の一助となった。 ・定期考査や検定試験に向けて、集中的に家庭学習に取り組んではいるが、日常的な家庭学習については短時間であった。	B	・現状を評価する。	教務主任 各教科主任 各学年担当者
	○確かな知識と技術の習得 ○高度な資格取得	○会計科は、3年次までに日商簿記検定2級を全員取得 ○商業科情報処理コースは、3年次までに全員全商検定4種目以上の1級取得 ○商業科のコースは、3年次までに全商検定2種目以上の1級取得	・商業科目の中で、資格取得の意識を理解させるとともに、資格の活用についても考えさせる指導を行う。 ・資格取得の有用性を考えさせる進路支援を行う。	B	・英検の1次試験を合格できる対策をしなければならない。時間の確保が課題である。 ・日商簿記2級について、3年会計科で1名未取得者がおり引き続き支援とチャレンジを促す。	C	・会計科は、3年次までに97%の取得率であり、1名の未取得者がいる。 ・情報処理コースは3年生で3種目取得率42.5%、4種目取得率2.5%。 ・OACコースは3年生で2種目以上取得率4.5%。目標を持って取り組んだが、取得率を上げることができなかった。	C	・資格取得に組織的な対策強化が必要ではないか。目標に対して達成度が低いようである。	教務主任 各教科主任 各学年担当者
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○授業や特別活動、部活動など教育活動における様々な機会を用いて、指導を行った職員の割合90%以上。 ○SNSを適切に扱っているとする生徒の割合85%以上	・授業、特別活動、部活動等すべての教育活動において、道徳教育を念頭に置いた指導を行い、人や社会の多様性、命の大切さ、他者への思いやりの心を身に付けさせる指導を行う。	C	・様々な場面で指導を行っているが、その効果は生徒によって差がある。モラルの低下などにも取り組む必要がある。	C	・校内だけでなく校外においても、マナーについての苦情があった。他者への思いやりの心の醸成は困難だと継続するしかない。	C	・思いやり、自分事に置き換える等の指導が必要だろう。想像力を持つことが大切である。 ・挨拶が以前よりもできなくなっている感じはある。先生が生徒に挨拶を返すことも大切。 ・厳しい自己評価の表れとしてポジティブに評価したい。今の取組みを継続してほしい。	生徒支援部主任 各学年担当者
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの防止策について、日頃から組織的に対応していると考える職員の割合90%以上 ○いじめを許さない教育が行われていると考える生徒の割合80%	・いじめ認知、認知の定義について職員会議等で周知徹底するとともに、対応マニュアルの見直しを行う。	C	・いじめの定義を認識させることが重要であり、あらゆる機会を通じて周知する。	C	・いじめという認識がない生徒もあり、ひとつひとつ教えていくしかない。いじめの定義を認識させることが困難な生徒も一定数いる。	C	・教育振興会としても「いじめ」をテーマとした講演か研修を検討したい。 ・心の教育は大事であるが重要なところである。 ・生徒が先生に相談しやすい雰囲気をつくることも大切。 ・厳しい自己評価の表れとしてポジティブに評価したい。今の取組みを継続してほしい。	生徒支援部主任 各学年担当者
	◎ふるさと唐津への思いを醸成するための教育活動	○佐賀県や唐津市(地元)に誇りと愛着を感じる生徒の割合85%	・地域の伝統文化に精通している人や地域貢献活動を行っている人を招いて、講演会を行う。	C	・地元で活躍されている経営者を1月に招聘し、講演会を実施するよう計画中である。	A	アンケートで「佐賀県や唐津市に誇りと愛着を感じる」生徒の割合93.8%	A	・現状を評価する。	教務部担当者 さがを誇りに思う教育推進事業担当者
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」生徒82%以上	・食育だよりの発行や食育講演会の開催を通して食に関する知識や興味関心を高め、毎日の食事を大切にする生徒を育てる。	A	・健康に良い食事をしている生徒の割合は88.7%である。毎年、食育講演会を行い、毎月発行している食育だよりを通して、食に関する興味関心を高めている。	A	・97.1%の生徒が健康と食習慣の大切さを知るための講演会が開催されたり、朝食を摂ることの大切さについての教育が行われていると認識している。今後も自分の健康に関心をもつ生徒を育てていきたい。	A	・現状を評価する。	保健部担当者
●健康・体づくり	○健康診断後の受診率向上	○健康診断後の各検査に受診率を50%以上	・健康診断後の受診勧奨と保健指導を継続して行う。	C	・各科の受診率は8～33%で、特に歯科の受診率が伸びていない。再度受診勧奨書を出して受診率の向上につなげる。	B	・受診勧告、個別指導、保健だよりに使った呼びかけを継続して行った。数値目標には届かなかったが、視力以外の受診率は昨年より向上した。	B	・現状を評価する。	保健部担当者
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日を定時退勤推進日とし、夏季休業中及び冬季休業中は毎週金曜日も加える。 ・職場のペーパーレス化を推進する。 ・ペーパーのリサイクルBOXを廃止し、情報漏洩を防ぐ。	B	・毎週水曜日には定時退勤を呼びかけた。 ・月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合15.7% ・チラシ等をSEI-Netで配信したり、アンケートをICT化したりして、ペーパーレス化を進めた。 ・紙のリサイクルをやめて情報漏洩を防いだ。	B	・毎週水曜日には定時退勤を呼びかけた。 ・振休の取得を積極的に呼びかけた。 ・月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合、年平均14.9% ・職員向けチラシ等をSEI-Netで配信したり、生徒・保護者・職員向けアンケートをICT化したりして、ペーパーレス化を進めた。 ・情報漏洩防止を徹底した。	B	・現状を評価する。	管理職
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○年休取得の推進	○年間14日以上を取得した職員70%以上	・定期考査期間中の会議設定を極力控える。 ・部活動の計画的実施を促し、計画的に休暇を取得できるようにする。	B	・定期考査中の会議を1日のみに抑え、年休や振休を取得しやすいようにした。 ・学校閉庁日を8日間設定した。	B	・定期考査中に会議を入れず、年休や振休を取得しやすいようにした。 ・国スポ等の振休が非常に多くなり、年間14日間以上年休を取得した職員は、臨任講師を除き34名中18名の47.4%に留まった。	B	・現状を評価する。	管理職
	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する教員の専門性が以前より向上したと回答した職員70%以上	・スクールカウンセラーによる校内の特別支援教育研修はもちろん、県が主催している特別支援教育スキルアップ研修を受講するよう、職員に呼び掛け、専門性を高める。	C	・特別支援教育に関する研修により教員の専門性が向上したと回答した職員は64.6%であった。	C	・県主催の特別支援スキルアップ研修案内の呼びかけとスクールカウンセラーによる特別支援教育研修会への参加率をまずは高めて、教員の専門性を向上させていきたい。	C	・担当者へのフォローが足りないのかもしれない。	特別支援教育コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	○★SAGASマートラーニング指定校として実践型ビジネス教育を実施	○★月2回の外部講師の招聘 ○地元企業に求められる人材を育成する。 ○自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合90%以上、職員90%。	・地元企業と連携した学習活動を行い、実践的な経験を積める機会を増やす。 ・インターンシップ等を充実させ、地域と連携した魅力ある教育活動を行い、教育の成果を広く地域に伝える。	A	・地元企業と連携して商品開発を行い、実体験を通して社会で必要なスキルを習得することができた。	B	・外部講師を活用した講義を実施し、地域の課題解決に向けて主体的な活動を実施することができた。 ・自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合88.8%、教職員92.7%。 ・3月には地元企業24社の方を講師に招聘し、「仕事朝」を行った。	B	・現状を評価する。 ・県内就職率がかなり高い。	サガスマートラーニング事業担当者 商業科主任 生徒会
○地域貢献活動	○地域清掃・イベント活動参加を通して広く地域から支持される生徒を育成	○国スポ・全障スポのボランティア登録者1・2年生で50%以上 ○虹ノ松原清掃や地域の清掃活動を実施する。	・地域貢献活動を生徒に呼びかける ・国スポ・全障スポのボランティアについて周知し、補助員を含め、ボランティアへの主体的な参加を推奨する。 ・職員も、役員またはボランティアとして最低1日は参加する。	B	・国スポ・全障スポのボランティア登録者数は正確に把握できていないが、1・2年生のみならず3年生も積極的に参加した。補助員業務を含め、SAGA2024を支える活動に主体的に取り組む生徒が多かった。	B	・国スポ・全障スポのボランティア登録者数は正確に把握できていないが、1・2年生のみならず3年生や教職員も積極的に参加した。補助員業務を含め、SAGA2024を支える活動に主体的に取り組む生徒が多かった。予定していた活動報告会が大雪の影響でできなかったのは残念。	B	・現状を評価する。	管理職 特別活動主任
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり										

6 総合評価・ 次年度への展望	・生徒の学ぶ意欲を高めることにつながる授業の実践は、職員全員が丸丸となって取り組むべき課題であり、今後も常に教材研究をはじめとした職員研修に励み、生徒のさらなる適切な進路選択につながるよう、粘り強く指導を行う必要がある。 ・「ホスピタリティマインド（気配りができる心の持ち方）」の会得と商業高校生としての専門的知識・スキルの習得の両立はある程度達成できているが、他校との優位的な差別化ができるよう職員の指導力の向上を図る。 ・地域社会と共存する取組は、コンポストや「やめれんたい」に代表される商品開発等の取組として実践できおり、全国上位レベルの賞も受賞できた。今後も、地域から必要とされる学校づくりや地域の発展に役立つ能力を身に着けさせる取組を行っている。 ・本校の諸先輩たちが数十年繋いできた「清々しい挨拶」の実践を継承していく。
--------------------	---